

訪問中の介護支援専門員が犠牲となった事件を受けて（会長声明）

令和8年6月1日に埼玉県川口市で発生した、訪問中の介護支援専門員が犠牲となられた事件に接し、深い悲しみを覚えています。お亡くなりになられた方に謹んで哀悼の意を表するとともに、ご遺族、ご関係の皆様にご心よりお悔やみ申し上げます。

また、日頃から地域住民の暮らしを支えるため、現場で尽力されている介護支援専門員の皆様をはじめ、関係するすべての皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

利用者や家族の生活を支える専門職に対する暴力や危害は、いかなる理由があっても決して許されるものではありません。

今回の事件は、介護支援専門員だけの問題ではありません。訪問介護や訪問看護をはじめ、多くの在宅サービスに従事する専門職も日常的に一人で利用者宅を訪問し、利用者や家族の生活を支えています。地域社会での生活を支える専門職が安心して業務に従事できる環境を確保することは、地域包括ケアシステムを支えるうえで欠かすことのできない重要な課題です。

また、専門職が安心して利用者支援を行える環境は、利用者一人ひとりに継続的で質の高い介護サービスを提供するための基盤でもあります。

現場の安全は、個々の職員の注意や経験だけに委ねられるものではありません。事業者による組織的な安全管理はもとより、訪問時の安全確保のあり方や緊急時の対応体制、安全上の懸念がある事例への組織的な対応、必要に応じた複数人での訪問、ICT等を活用した安全対策などについて、国、自治体、関係団体、事業者等が連携し、検討を進めていくことが求められます。

公益社団法人日本介護福祉士会は、本件を在宅介護に携わる専門職全体の安全に関わる重要な課題として受け止めています。介護福祉士をはじめとする関係職員が安心して専門性を発揮できる環境の実現に向け、関係機関と問題意識を共有しながら、必要な検討を進めてまいります。

令和8年6月29日

公益社団法人日本介護福祉士会
会長 今村 文典